

平成28年度 第3回千葉県博物館協議会会議 議事録要旨

1 日 時

平成29年3月9日（木） 午後1時30分～3時30分

2 会 場

千葉県立美術館 研修室

3 出席者

【委員】柳谷委員、中原委員、鵜澤委員、細井委員、岡本委員、高橋委員、齊藤委員、常光委員

【博物館】（美術館）田村館長、（中央博物館）中村館長、（現代産業科学館）平賀館長、（関宿城博物館）谷鹿館長、（房総のむら）安藤館長

【文化財課】植野主幹兼学芸振興室長

4 議事概要

（1）開 会

（2）館長挨拶

千葉県立美術館 田村館長

（3）議 事

ア 収蔵資料の活用について

○委員 ルーブル美術館などは収蔵資料を見に世界中から観客が来る。収蔵品展で集客できないというのは、ある意味日本的な問題かもしれない。

活用以前の問題として、良いものを収蔵することも大切。（2014年に休館したメタルアートミュージアムに収蔵されていた）北詰コレクションについては行く末を心配していたが、千葉県立美術館で受け入れるとのことで安心した。コレクションをすべて受け入れるのは、やはり県立館でないと難しい。

熱海のMOA美術館では紅白梅図屏風が展示されていて、来館者が写真を撮っていた。その人たちがインスタグラムなどにアップすると、MOA美術館の宣伝にもなる。ルーブル美術館や、東京国立博物館、東京国立近代美術館などでも可能になってきている。千葉県立美術館では第7室のうち長谷川昂の撮影はできない。もう少し写真撮影に関する規制を考えて撮影が可能になれば、千葉県立美術館を知ってもらうことにもなるのではないかと。保存や

著作権などの問題はあると思うが、活用につながると思う。

- 委員 作品についての説明をしてもらおうと、もう一度見ようという気持ちになる。初めにスクリーンなどで収蔵作品の解説などを聞くことができれば、興味・関心を持って見学することができるのではないか。

夏のアートコレクションの「海の不思議ないきもの」は子供たちにも作れそうな作品で、夏休み期間中に図工としてできるものをワークショップなどでやってもらえると夏休みの宿題にも役立つのではないか。

- 委員 館長の説明は、一般来館者向けでわかりやすかった。

収蔵資料の活用という目的にあった活動をしていると思う。

成田市文化芸術センターでの移動美術館を見学したが、地域に来てもらえると、気軽に見に行くことができ、普段美術館まで足を運ぶことが難しい人も見ることができるので、良い企画だったと思う。

- 議長 移動美術館の経費はどこが負担しているのか。

- 美術館 予算は大網白里で開催した1回分が措置された。成田については、地元から経費負担の申し出があって実現した。

- 議長 作品を持っていくのは大変だと思うが、多くの方に見ていただけるのは大変良い。

- 委員 館長の解説と学芸課長の解説はバランスがとれていてよかった。

良い作品を収蔵することが大切であるが、作品が市場に出た時にタイミングよく購入する資金はあるのか。

- 文化財課

取得基金があるが、県全体の財政状況が悪く、使いづらい状況である。他県では基金自体をなくしているところもあり、使う際は県民の理解を得ることが必要である。

- 委員 北詰コレクション収蔵の際も予算的な措置があったほうが良かったのではないか。ぜひ、必要な時には基金を活用してよい作品が収集できるようにしてほしい。

- 委員 かつて勤務していた美術館で作品を購入した時は1年がかりで大変な思いをした。しかし良いものは機会に応じて取得することも必要であると思う。

- 委員 外国の美術館では古代ギリシャ・ローマ時代などの作品から、総合的に展示している。美術館を訪れる皆が皆、美術愛好家ではないが、見学経験によって美術が好きになることもある。県内にもいろいろな博物館があるので、歴史系の博物館とコラボレーションして展示を行うのも面白いのではない

か。絵だけでなく、その周りの時代背景も含めて見せる展示なども活用の際には考えてはどうか。

○委員 インスタグラムに展示会の写真を投稿するとオリジナルステッカーがもらえるところがある。情報発信するとプレゼントをもらえるといった、若い人を引き込む工夫をしてはどうか。

ポートタワーなど、館以外の場所での展示に効果があったようなので、子供の集まる場所や、駅などに展示をするなど公共の場所を使って宣伝をしたらどうか。

全体に地味なので、プラモデルのような、作品以外の関連資料を置くなど工夫してはどうか。また、制作過程をパネルなどを使って紹介してはどうか。そのほうが子供や若い人にはわかりやすいのではないか。

○議長 駅などへのポスター掲示は行っているのか。

○美術館 駅への掲示は有料なため、予算の裏付けのないアートコレクションでは難しい。

○委員 県民の財産である基金も活用してこそ。県民のためには良いものを買って移動美術館など生かして使うべき。文化や歴史はなくてはならないものである。

収蔵作品の中に文化財に指定されているものはあるのか。

○美術館 石井雙石の作品は指定されている。

○委員 今後も、指定をするなどして活用をしてほしい。

収蔵作品は常設展のように固定的には並べていないということか。

○美術館 収蔵作品をテーマを設けて展示することで新しい面を見せ、そういった工夫によってマスコミにも取り上げてもらっている。

○委員 勉強したくて来館する人もいるので、良いものを見せるのは大切。同じ展示を中央博物館でも見たが（「海の不思議ないきもの」の分館海の博物館での展示）どこで見るかによって、作品の印象も変わってくる。

○中央博物館長

木暮作品（「海の不思議ないきもの」）は分館海の博物館でも展示を行った。先日の菱川師宣記念館での県美作品の展示、「浅井忠・バルビゾン派の画家たち」も見学したが、地元の人が、展示会が地元に来ているから見られる、と話していた。

○委員 千葉にゆかりのある人や、千葉をテーマにした将来性のある作品を購入してはどうか。

○美術館長

若手の作品は、評価が定まっていないなどの点で、購入が大変難しい。

○委員 千葉県立美術館にどのような作品があるのかがあまり知られていない。どんな作品があるか解れば行ってみようと思うのではないか。千葉県立美術館だったらこの作品がある、というようなアピールをしないと一般人にはわからないのではないか。

○美術館長

浅井忠に関してはもちろん当館の中心となるものだが、今や当たり前になっていて目新しさに欠ける部分がある。浅井忠だけではアピールポイントとして弱い気もするが、山梨県立美術館のように、高額な作品を購入して、集客や県民の理解などが上手くいっているのは極めて特殊な例である。高額な作品の購入には県民や各方面からの反応など大変難しいものがある。

○委員 絵画などについての教養教育なども必要ではないか。

○委員 美術館の役割の一つとして、美術に関するすそ野を広げるために、小中学校向けの体験事業や展示の工夫などをもっとやってほしい。

○議長 活用については、今後も各館で多角的に考えていかななくてはならない。本日の意見を生かしていただければと考える。以上で収蔵資料の活用についての協議は終了とする。

イ その他

○事務局 <平成29年度の協議会の予定について報告>

(4) 閉会